

番号	8	令和7年度公共事業再評価調書				担当課名	河川海岸整備課																																
事業名	河川改修事業(広域河川改修事業)				事業主体	静岡県																																	
箇所名	にきゅうかせんじんぐうじがわ 二級河川神宮寺川				関係市町	浜松市																																	
事業採択年度	平成28年度		計画期間	平成28年度～令和14年度																																			
用地着手年度	平成28年度		工事着手年度	平成28年度																																			
再評価理由※	再評価実施後5年間が経過した時点で継続中																																						
全体事業費	百万円 967	投資状況 (百万円)	～R5年度 568	R6年度 30	R7年度見込 19	計 617																																	
事業概要	(1)事業目的 下流の資産集積区間については井伊谷川とのバランスの観点から年超過確率1/20規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とし、平成23年9月洪水で浸水被害が発生した横尾地区については再度災害防止の観点から、年超過確率1/10規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とする。 (2)事業内容 施工延長：1,500 m 河道拡幅工：1,500 m 橋梁工：1 橋																																						
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 神宮寺川流域は事業採択時から土地利用に大きな変化は無いものの、平成23年9月台風15号の豪雨において堤防から越水し、家屋と農地が浸水した。このため、地元からは早急な治水対策が望まれている。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和7年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>1.2</td><td>1.7</td><td>2.0</td><td>5.1%</td></tr></table> ・総便益 (B) 13.2 億円 (被害軽減便益：12.8億円、施設の残存価値：0.5億円) ・総費用 (C) 10.8 億円 (建設費：9.7億円、維持管理費：1.0億円) ○見込まれる効果(定性的な効果) - 被災可能性に対する不安の低減効果 - 治水安全度の向上による地価の上昇 - 流下阻害となっている橋梁の架替に合わせた道路幅員拡幅による地域交通の利便性の向上 (3)事業の進捗状況 (令和7年度見込み) <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>進捗率</th><th colspan="2">内 訳</th></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>63.8%</td><td colspan="2">(617 百万円 / 967 百万円)</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>河道拡幅工</td><td>21.3%</td><td colspan="2">(320 m / 1,500 m)</td></tr><tr><td>橋梁工</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(1 橋 / 1 橋)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>88.6%</td><td colspan="2">(14,803 ㎡ / 16,713 ㎡)</td></tr></table> 評価継続が妥当							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	1.2	1.7	2.0	5.1%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		63.8%	(617 百万円 / 967 百万円)		事業量	河道拡幅工	21.3%	(320 m / 1,500 m)		橋梁工	100.0%	(1 橋 / 1 橋)		用地取得		88.6%	(14,803 ㎡ / 16,713 ㎡)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																				
1.2	1.7	2.0	5.1%																																				
区 分		進捗率	内 訳																																				
事業費		63.8%	(617 百万円 / 967 百万円)																																				
事業量	河道拡幅工	21.3%	(320 m / 1,500 m)																																				
	橋梁工	100.0%	(1 橋 / 1 橋)																																				
用地取得		88.6%	(14,803 ㎡ / 16,713 ㎡)																																				
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み 下流工区(井伊谷川合流点から神宮寺橋付近までの区間)及び上流工区(横尾橋付近から黒淵橋付近までの区間)を対象にしており、現在は上流工区を整備中であり、令和5年度に水神橋の架替が完了した。地域住民の理解も得られており事業への期待も大きいことから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。 評価継続が妥当																																						
【視点3】	新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 良質な工事発生土を築堤材に利用している。引き続き現場内流用や、他事業と連携しコスト削減に努めていく。																																						
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を【 継続 】する。 (2)理由 本事業は、河川改修により神宮寺川流域の浸水被害を軽減するものである。 当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨により、事業の必要性が一層高まっており、さらに事業の投資効果も見込まれ、地元住民の事業への期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。																																						

費用便益比算出説明書

二級河川 神宮寺川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益 B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額] ＋[施設の残存価値]	1,324百万円
総費用 C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	1,079百万円
B／C		1.23

総便益

○事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間67年(整備期間17年＋50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned}
 B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\
 &= 1,277.5 \text{ 百万円} + 46.8 \text{ 百万円} \\
 &= 1,324.3 \text{ 百万円}
 \end{aligned}$$

※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

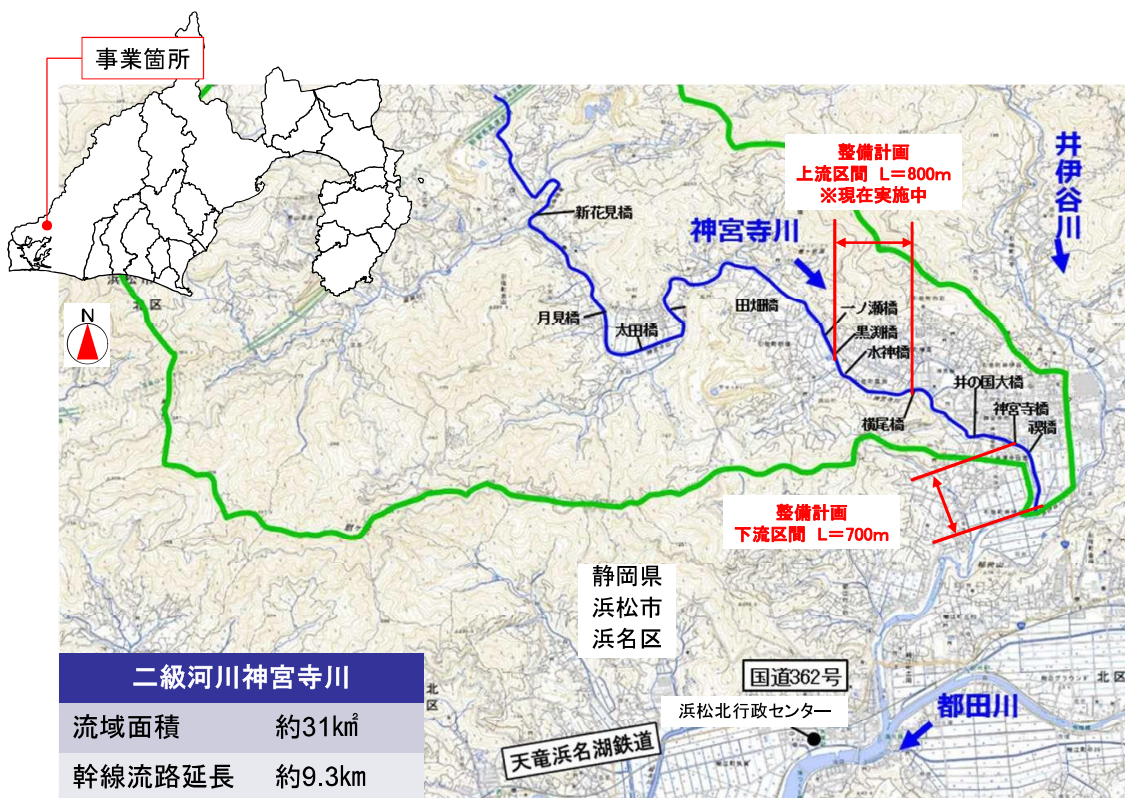
○事業建設費
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。
建設費の0.5%/年、評価対象期間:67年(整備期間17年＋50年)

総費用

$$\begin{aligned}
 C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\
 &= 974.5 \text{ 百万円} + 104.0 \text{ 百万円} \\
 &= 1,078.5 \text{ 百万円}
 \end{aligned}$$

1. 事業箇所位置図



2. 事業概要

浸水実績図



発生年月日	水害原因	被害家屋棟数(戸)		雨量規模(mm)		確率規模		観測所
		床上	床下	最大1時間	最大24時間	最大1時間	最大24時間	
H23.09.21	溢水	0	1	45.5	154.5	1/2	1/3	浜松(気)
H26.10.05-06	溢水	0	0	53.0	262.0	1/4	1/34	
H29.06.21	溢水	0	1	39.0	182.0	1/1	1/6	

写真等



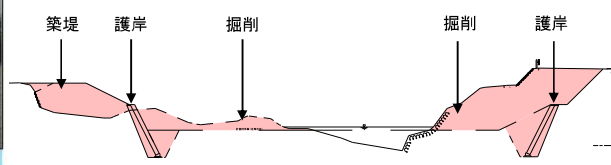
事業目的

下流の資産集積区間については井伊谷川とのバランスの観点から年超過確率1/20規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とし、平成23年9月洪水で浸水被害が発生した横尾地区については再度災害防止の観点から、年超過確率1/10規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とする。

事業内容

- 計画期間 平成28年～令和14年
- 事業内容 施工延長 1500m
河道改修(掘削工、護岸工など) 1500m
橋梁工 1橋
床止工 1基
- 全体事業費 9.67億円

標準横断面図



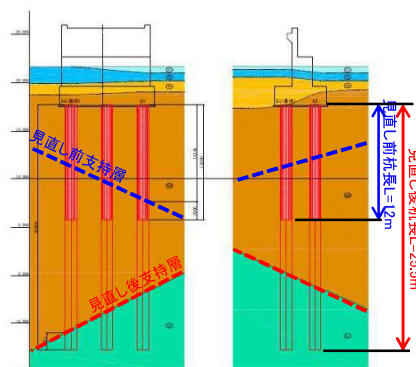
2. 事業概要

前回からの変更点・理由

区 分	前回(R2)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	H28～R10	H28～R14 (+4年)	- 岩掘削の追加による施工能率の低下 - 推定支持層の相違による見直し
②全体事業費	562百万円	967百万円 (+405百万円)	- 岩掘削の追加 - 推定支持層の相違による見直し - 物価及び労務費の上昇



岩盤の露出に伴う岩掘削作業



3. 事業の投資効果（費用便益比）

総便益(B) = 13.2 (億円)

➤被害軽減期待額 12.8 (億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 0.5 (億円)

総費用(C) = 10.8 (億円)

➤建設費(現在価値化) 9.7 (億円)

➤維持管理費(現在価値化) 1.0 (億円)

※令和6年換算価値

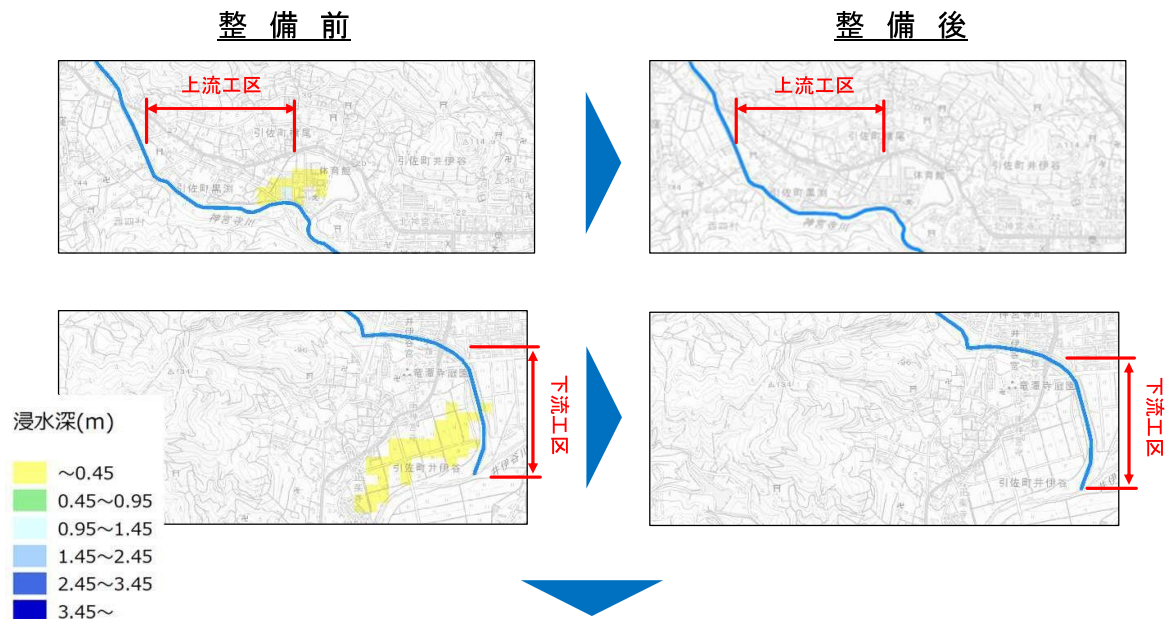
※文献(マニュアル):「治水経済マニュアル(案)」

(国土交通省水管理・国土保全局、R6.4)

費用便益比(B/C) = 1.2

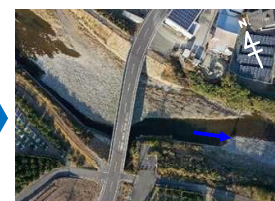
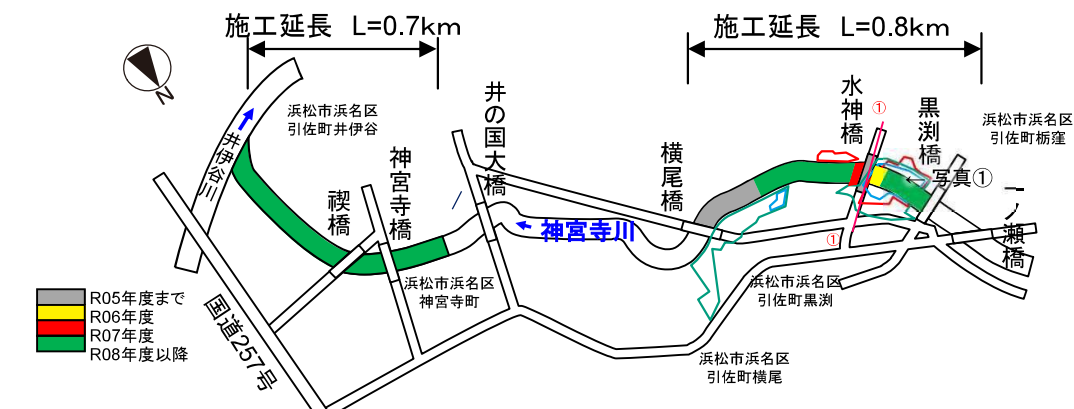
4. 事業の投資効果

【整備目標規模(年超過確率 上段:1/10 下段:1/20)洪水による氾濫シミュレーション結果】



本事業を実施することにより
神宮寺川流域の浸水地域における浸水被害が軽減される

5. 事業の実施状況



【事業の進捗状況】

事業費 63.8% (617百万円/967百万円)

事業量 21.3% (320m/1500m)

6 . 今後の事業の進捗の見込み

- ・ 令和2年度以降、甚大な浸水被害は発生しておらず、事業の対策効果が出ている。
- ・ 地域住民の理解も得られており事業への期待も大きい。
- ・ 引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。



7 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

【河道掘削】

- ・ 工事発生土は、近隣の公共事業に利用するなど、他事業と連携しコスト縮減に努める。

【護岸整備】

- ・ 積みブロックの控え厚さ(35cm)を変えず、0.5㎡/個に大型化させることで施工の省力化を図る。



クイックブロック

NETIS登録番号:HR-240017-A



クイックブロック

竣工及び施工写真

8 . 対応方針（案）

◆事業の必要性

当該地区は、過去より浸水被害が頻発しており、地元から河川改修に対し強い要望がある。また、近年流域内において、新東名高速道路の整備や宅地化の進行がみられ、水害が発生した場合の危険度は増しており、当該事業に対する期待度は極めて高い。

◆事業の投資効果

$B/C=1.2$ と1以上であることから事業の投資効果があると判断できる。

◆事業の進捗状況

令和5年に水神橋が竣工した。今後は上流工区（横尾橋から黒淵橋までの区間）の河道掘削及び護岸整備、下流工区（井伊谷川合流点から神宮寺橋までの区間）の河道掘削を行っていき、令和14年度までに整備を完了させる予定である。



事業は順調に進捗し、費用対効果も認められている。

また、地域住民の改修への期待が大きいため、

事業を継続する